

## 2024 年度 個人研究実績・成果報告書

2025 年 4 月 21 日

所属	人間社会学部	職名	准教授	氏名	佐藤 哲彰
研究課題	学生の授業における内発的動機への外的動機付けのアンダーマイニング効果について等				
研究キーワード	動機付け、内発的、ボラン ティア、	当年度計画に対す る達成度	3.概ね順調に研究が進展し、一定の成果を 達成したが、一部に遅れ等が発生した		
関連する SDGs項目	4. 質の高い教育をみん なに	8. 働きがいも経済成長 も	16. 平和と公正をすべて の人に	17. パートナーシップで 目標を達成しよう	

## 1. 研究成果の概要

授業を用いた実験は研究倫理上論文としてほぼ認められないということが判明したため、標記の研究課題でなく、研究計画書に②として記した「アダム・スミスの『見えざる手』による調整と『共感』を通して、経済運営における『利己性』と『利他性』の関係、さらに人間・社会の構造をどう捉えているのか」についてのレビューワークを行った。経済を動かすのは直接的には利潤動機等の「利己的」動機であるが、それが働く土台として健全かつ安全な社会が必要であり、それについての議論を「利己的」動機のみで編み上げることは、拡張的・「啓発された」自己利益の概念をもってしても説明が困難な部分が残る。

鍵は、他者の感情に共鳴する私たちの生得の直感的能力に由来するのではないかと考え、アダム・スミスの「共感」*sympathy* の議論に注目した。スミスの議論においては、「共感」はそのような直感的共感能力ではない。自分が周囲から受け入れられ喜ばれるためにどうすればいいかという思慮から「胸中の『公平な』観察者」を自己の内面に形成し、それに基づいて自他の行動の是非を判断する、心の働きとしている。この『公平』さは自己欺瞞など利己的な要素によって歪められ、多大な問題を生じているが、各人のもつ「一般的諸原則」、他者との交際を通して形成される、一種の常識や慣習によって制御されている、とする。

アダム・スミスは牧師候補としての奨学金審査に合格してオックスフォード大学に進学し、学問の道に移ったのちにグラスゴー大学の道徳哲学教授に 29 歳で就任したキリスト者である。だがこのような「胸中の『公平な』観察者」に導かれて人生を歩むという中心的な考えは、本来キリスト教の教義としては最も糾弾されるべきものである。聖書は裁いてはならないと繰り返し語り、キリスト者に自分の判断に自信を持つことを強く戒めている。

アダム・スミスの議論をさらに追いつつ、どのような信仰の遍歴をもとにアダム・スミスはこのような思想を形成したのか、またこの思想が当時のイギリスや欧州でどのようにキリスト教的に評価され、受け入れられたのかについて調べる必要を感じた。この視点からもレビューワークを続けたい。

## 2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】

なし

**【著書・論文（査読なし）】**

なし

**【学会発表等】**

なし

**3. 主な経費**

文献購読のための機器購入、研究会費、文献レビュー用の書籍購入費など。

**4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）**

生活経済学会の企画担当理事の業務を行った。

(本文は2ページ以内にまとめること)